

電波システム海外展開推進会議（第2回）議事概要

1 日時

平成29年4月17日(月) 16:00～16:45

2 場所

総務省7階省議室

3 出席者

(1) 構成員

綱川構成員（(株)東芝）、遠藤構成員（日本電気(株)）、荒構成員（日本無線(株)）、佐久間構成員（(株)日立国際電気）、山西構成員（三菱電機(株)）

(2) 総務省

あかま総務副大臣、太田総務大臣補佐官、福岡総務審議官、鈴木総務審議官
富永総合通信基盤局長、渡辺総合通信基盤局電波部長

4 議事概要

(1) 総務副大臣挨拶

あかま総務副大臣から挨拶が行われた。

(2) 電波システムの海外展開戦略の検討状況について

事務局から資料2-1に基づき前回会合以降の検討状況について説明が行われた。

(3) 意見交換

各構成員から、資料2-1に対するコメント、前回会合からの進捗状況等について説明などがあり、意見交換が行われた。

意見交換の概要は次のとおり。

- まずはご理解をいただくことが重要、その点で、今回計画されている国際セミナー、展示会などを通じた他国政府への積極的なアピールは非常に有効。
- ワイヤレスはIoTのコネクティビィのシステムとして重要、課題となる傍受への秘匿性は日本の力がある領域。
- 現地での実績が無いのが課題、その点で、現地での実証実験が非常に重要。
- 海外展開に当たって主管庁への働きかけに感謝。
- 国内で実用化されているシステムであっても、海外展開に当たっては、各国によって要求するスペックが異なるので、当事国の要望を聞きながら進めていく必要がある。

- 日本のシステムを導入したいが高いとの話をよく聞くので、資金援助を是非お願いしたい。
- 納入しておしまい、ということではなく、アフターサービスとして、現地の国のエンジニアの育成なども支援ができれば、海外への展開が広まっていく。
- 国家機関向けのシステムについては、各国政府の方々に、来日していただき実証実験の現場を見ていただくことも有効。
- 新しいシステムは各国での法整備も重要であり、その点で、日本の技術の国際規格化（国際標準化）の取り組みが重要。
- 導入後の現地の方々の保守、リフレッシュ・点検にも協力をさせていただき、いわゆる現地の方々と一体となった整備を進めるということが、やはり日本としての大きな特徴ではないか。
- これから国内の制度整備を行うシステムは、国内実績を待っていると海外展開が遅れてしまうので、先行して展示会でのPRなどを開始していくことが重要。
- 昨年、総理も出席されたアフリカ開発会議（TICAD）では日本の情報通信関連機器の展示も行われたので、ぜひそういう機会にご同行もいただきたい。また、資金に関しては、多様な金融スキーム（JBIC、JICT）が整いつつあるので、それらを上手く活用することが重要。
- アフターサービスにも力を入れるべきという点は同感。東南アジア市場を席卷している欧米の企業は、単に物を売るだけではなく、広い観点から地域社会にも貢献し、ネームバリューを確保している。

これらを踏まえ、あかま総務副大臣から、まずは5月4日の国際セミナーをともに進めていきたいとの、コメントが述べられた。

（5）その他

第3回会合を7月頃に開催することが確認された。